

出版記念シンポジウム in 宝塚

「宗教・伝統」にひそむ ジェンダーを問う

『いつまで続く「女人禁制」～差別と排除の日本社会をたどる～』

(源淳子編著・解放出版社)

『仏教における女性差別を考える～親鸞とジェンダー～』

(源淳子著・あけび書房)

コロナ感染拡大防止のため延期されていたシンポジウムの開催です。2冊の本は日本社会における女性排除のしくみを探究し、糺そうとしています。声高に「女性の活躍推進」が叫ばれながら、依然として改善されない現状をどう打開していけばよいのでしょうか。日頃から胸に溜まっているものを吐き出し合い、お互いパワーアップできるような集いにしたいと思います。(会場の入場者数が制限されるため申し込みが必要です。先着40名)

とき 2020年7月11日(土)13:30~16:30 (13:00開場)

ところ 宝塚市立男女共同参画センター・エル 学習交流室1

(宝塚市栄町2-1-2「ソリオ2」4階 TEL 0797-86-4006)

パネリスト

中川 智子 (宝塚市市長)

佐々木 基文 (高野山真言宗総本山金剛峯寺社会人権局長・高野山こども園々長)

土肥 いつき (京都府立高校教員・トランスジェンダー生徒交流会世話人)

源 淳子 (「大峰山女人禁制」の開放を求める会共同代表)

コーディネーター

畑 三千代 (「大峰山女人禁制」の開放を求める会共同代表・J女性会議なら代表)

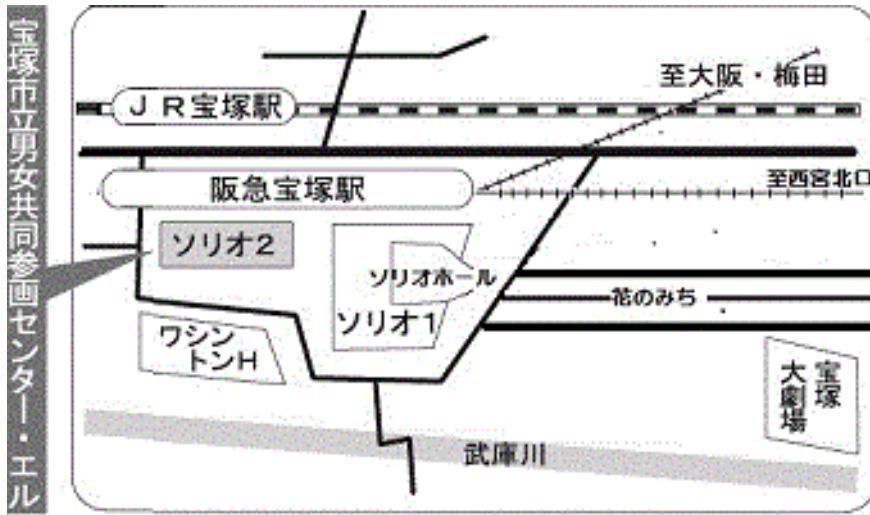
参加費 500円

参加申し込み先 090-1077-6596 (畑) 0774-71-3590 (源)

主催者 出版記念シンポジウム実行委員会

☆終了後、ささやかな懇親会を予定しています。





J R・阪急宝塚駅下車すぐ

『いつまで続く「女人禁制」』 1700円+税

『仏教における女性差別を考える』 1500円+税



二〇一八年四月、大相撲・舞鶴場所の土俵上であいさつをしていた市長が倒れ、彼を助けるために看護師が土俵に上がったことで、土俵の「女人禁制」が問題になりました。奈良県の「大峰山」もいまだに「女人禁制」です。こうした排除は女性だけでなく、ハンセン病、セクシユアルマイノリティ、部落問題などにも残っています。そして、「排除の思想」は、買春や「慰安婦」問題にもつながっているのです。

二〇一八年一二月、東本願寺が開催したギャラリー展「經典の中で語られた差別」で、女性差別を取り上げたパネル三枚が差し替えられる「事件」がおこりました。これを機に、經典や親鸞の著作にみられる女性差別を差別として認め、宗教が女性を「穢れた存在」「罪深い存在」として説いた呪縛を明らかにし、宗教的な迷信から解放されて宗教的自立を果たしたい…という試みを一冊にまとめました。